

清水寺

宮内 魁大

(2018 年度入学 鈴木ゼミ 2 期生)

以前私の好きな京都で「神社」の中から金閣寺を選び発表しました。今回はその第 2 弾で清水寺をご紹介します。なぜ色々ある神社の中から清水寺を選んだかというと、私が小さい頃に行った事のある場所だからだ。そこで見た景色がとても忘れられず今でも覚えているからだ。やはり印象強い事は忘れないのでしょう。

1, 紹介

清水寺は、京都市東山区清水にある北法相宗の大本山である。山号は音羽山。正式には音羽山清水寺（おんわさんきよみずでら）と号する。

清水寺は法相宗系の寺院で、広隆寺、鞍馬寺とともに平安京遷都以前からの歴史をもつ京都では数少ない寺院の 1 つである。また石山寺（滋賀県）、長谷寺（奈良県）などと並び日本でも有数の観音霊場であり、金閣寺、嵐山などと並ぶ京都市内でも有数の観光地として有名であり、季節を問わず多くの参詣者また修学旅行で多くの学生が訪れる。古都京都の文化財としてユネスコ世界遺産に登録されている。

清水寺の宗旨は、当初は法相宗で平安時代中期からは真言宗を兼宗していた。明治時代初期に一時真言宗醍醐派に属するが、1885 年に法相宗に復す。1965 年に住職であった大西良慶が北法相宗を立宗して法相宗から独立した。



2, 創建伝承

清水寺の創建については、『群書類従』所収の藤原明衡撰の『清水寺縁起』、永正 17 年（1520 年）制作の『清水寺縁起絵巻』（東京国立博物館）『今昔物語集』、『扶桑略記』の延暦 17 年（798 年）記などにも清水寺草創伝承が載せられている。

宝亀 9 年（778 年）に大和国の興福寺の僧で当時子島寺で修行していた賢心（後に延鎮と改名）は、夢のお告げで北へ向かい、山城国愛宕郡八坂郷の東山、今の清水寺の地である音羽山に至った。金色の水流を見出した賢心がその源をたどっていくと、そこにはこの山に籠って滝行を行い、千手観音を念じ続けている行叡居士という白衣の修行者がいた。年齢 200 歳になるという行叡居士は賢心に「私はあなたが来るのを長年待っていた。自分はこれから東国へ旅立つので、後を頼む」といい残して去って

いった。行叡は観音の化身であったと悟った賢心は、行叡が残っていた霊木に千手観音像を刻み、行叡の旧庵に安置した。これが清水寺の始まりであるという。

その2年後の宝亀11年（780年）、鹿を捕えようとして音羽山に入り込んだ坂上田村麻呂は、修行中の賢心に出会った。田村麻呂は妻の高子の病氣平癒の為、薬になる鹿の生き血を求めてこの山に来たのであるが延鎮より殺生の罪を説かれ、観音に帰依して観音像を祀るために自邸を本堂として寄進したという。後に征夷大將軍となり、東国の蝦夷平定を命じられた田村麻呂は、自身が建立した清水寺に平定参拝をしたという。その後、若武者と老僧の加勢を得て戦いに勝利し無事に都に帰ることができた。延暦17年（798年）、田村麻呂は延鎮と協力して本堂を大規模に改築し観音像の脇侍として毘沙門天と地藏菩薩の像を造り、共に祀ったという。以上の縁起により清水寺では行叡を元祖、延鎮を開山、田村麻呂を本願と位置づけている。



3、平安時代以降

延暦24年には太政官符により坂上田村麻呂が寺地を賜り、弘仁元年には嵯峨天皇の勅許を得て公認の寺院となり、「北観音寺」の寺号を賜ったとされる。『枕草子』は「さわがしきもの」の例として清水観音の縁日を挙げ、『源氏物語』『夕顔』の巻や『今昔物語集』にも清水観音への言及があるなど、平安時代中期には観音霊場として著名であったことがわかる。清水寺の伽藍は康平6年の火災以来、近世の寛永6年の焼失まで、記録に残るだけで9回の焼失を繰り返している。平安時代以来長らく法相宗の興福寺の支配下にあり、平安時代中期からは真言宗をも兼宗していたが興福寺と延暦寺のいわゆる「南都北嶺」の争いにもたびたび巻き込まれ、永万元年には延暦寺の僧兵の乱入によって焼亡している。

文明元年には応仁の乱の兵火によって焼失し、その再建のために時宗の勸進聖願阿弥が迎え入れられた。願阿弥は清水寺入寺以前に橋や寺堂の再建、救恤といった事業に従事しており、その際に率いていた勸進集団や要人との人脈をもって再興事業に臨んだ。願阿弥自身は再興の完遂を見届けることなく世を去ったが、願阿弥の率いた勸進集団は寺内に地歩を築き、本願成就院として近世にいたる本願の出发点となった。豊臣秀吉は清水寺に130石の寺領を安堵したが、江戸幕府になってもこの寺領は継承

されている。現在の本堂は寛永6年の火災の後、寛永10年に徳川家光の寄進により再建されたものである。他の諸堂も多くはこの前後に再建されている。



4, 三職六坊

近世の清水寺は「三職六坊」と呼ばれる組織によって維持運営されていた。「三職」とは寺主に当たる「執行」、副寺主に当たる「目代」、寺の維持管理や門前町の支配などを担当する「本願」を指し、執行職は宝性院、目代職は慈心院、本願職は成就院がそれぞれ務めた。「六坊」はこれに次ぐ寺格を有するもので義乗院、延命院、真乗院、智文院、光乗院、円養院の6か院である。このうち宝性院は仁王門北方に現存する。慈心院は本堂のみが随求堂として残っている。成就院は近代の中興の祖である大西良慶が住坊とした所で境内北側に位置し、現在は清水寺本坊となっている。

「六坊」の6か院はいずれも境内南方にまとまって所在したが、このうち真乗院は織田信長によって廃絶され、以後は成就院によって寺籍のみが継がれていた。義乗院、智文院、光乗院、円養院も廃仏毀釈の時期に廃絶し、現在は延命院が残るのみである。

5, 最後に

今回は建設や役職といった細かい所まで調べたが、知らない事がありすぎて自分でも驚きました。名前を知っているだけで、より深い事を知らなければ勿体ないと思いました。深く知ってこそ、訪れた時の楽しさがあると思う。この機会に訪れてみては如何ですか。

参考文献

古寺巡礼京都 清水寺 森 清範

朝日新聞

京都新聞